

F3 プロジェクトによる北海道大学大学院理学研究院生物科学部門または大学院理学研究院自然史科学部門多様性生物学分野の教員募集

北海道大学理学部生物科学科（生物学）の教育は、大学院理学研究院・生物科学部門および同研究院自然史科学部門・多様性生物学分野の教員が中心となって実施しています。このたび、北海道大学 F3 プロジェクトに採択されましたことから、以下の要領で理学部生物科学科（生物学）の教育に参加して下さる女性教員（講師または准教授）を 1 名公募いたします。関係各位に通知くだされば幸いです。なお採用後は、専門分野に応じて、生物科学部門か自然史科学部門・多様性生物学分野のいずれかに所属して教育研究に従事していただくこととなります。

1. 職名

講師または准教授 1 名（ただし、平成 26 年 3 月 31 日までは特任講師または特任准教授として採用します）。

2. 任期

特任講師または特任准教授を経て、業績等審査の後、平成 26 年 4 月 1 日付けで講師または准教授（任期なし）に移行する事が可能です。

3. 専門分野

基礎生物学。生物学の分野や研究に用いる材料は問いません。

4. 職務内容

採用後は、（英語による）大学院生命科学院または理学院での学生の教育・研究指導、理学部生物科学科（生物学）の講義、実習、および科学英語演習に加え、生物学関連の全学教育科目を担当していただきます。また、積極的に自身の研究を推進するとともに、競争的資金にも応募する姿勢が求められます。

5. 応募資格

- (a) 海外において博士の学位を取得した者であって、加えて海外においてポストドクあるいは研究職・教育職に従事した経験のある方。

- (b) 女性であること（男女雇用機会均等法第 8 条に該当。女性教員の割合が相当程度少ない現状を積極的に改善するための措置として女性に限定した採用を行うものです）（付記参照）
- (c) 英語の読み書きおよび英会話の能力が英語を母国語とする者と同程度に堪能であること。日本語の能力は特に必要ありません。

6. 着任時期

2011 年 10 月 1 日の着任を希望しますが、遅くとも 2011 年 12 月 1 日までは着任していただきます。

7. 提出書類（すべて英語で作成してください）

- (a) 履歴書：写真貼り付け、国籍、生年月日、現住所、連絡先（電話番号、e-mail）、高等学校以上の学歴、職歴、学位に関する記載を含む。
- (b) 研究業績目録：原著論文、総説・著書、その他に分類して作成すること。原著論文は査読制のある学術雑誌に掲載された論文に限定し、査読制のない学術誌に発表された論文は「その他」に入れること。また、学会賞等授賞歴、研究費取得状況、特許、社会に対する貢献（学会活動、雑誌編集など）など選考の参考となる事項についても記載してください。
- (c) 現在までの研究の概要（A4、1 ページ程度）。
- (d) 着任後の研究・教育に対する抱負（A4、2 ページまで）。
- (e) 本人に関して参考意見を求める事のできる方 3 名の氏名および連絡先。

8. 応募書類提出先

応募書類は 1 個の pdf ファイルとして、mhdick@mail.sci.hokudai.ac.jp までお送り下さい。応募書類を受け取り次第、確認の返信をいたします。

9. 応募締め切り

2011 年 5 月 20 日（金）必着。

10. 問い合わせ先

本件に関する問い合わせは Professor Matthew H. Dick：電話 +81-11-706-2750；E-mail, mhdick@mail.sci.hokudai.ac.jp 宛てにお願いいたします。また、生物科

学科（生物学）に関する情報は、以下のホームページも参照してください。

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/biodiversity/English.html>

http://www.sci.hokudai.ac.jp/bio/en/teacher_en.php.

付記

本公募は、平成21年度文部科学省科学技術振興調整費（女性研究者養成システム改革加速）事業に採択された本学提案課題「輝け、女性研究者！根を張れ、花咲け、実を結べ@北大」によるF3プロジェクト人事です。理学・工学・農学分野における女性研究者の定着および活躍促進を目指す本プロジェクトでは、敢えて女性のみを対象とする公募を行い、育つ能力と覚悟を持った優秀な女性研究者を本学の教育・研究になくてはならない教員として迎えるものです。

(<http://f3project.ist.hokudai.ac.jp>)

採用後、本学での研究活動を円滑にスタートしていただけるよう、また本来の力を十分発揮していただけるよう、所属部局・研究室だけでなく本学人材育成本部・女性研究者支援室を中心に全学で支援します。出産・育児等の家庭生活との両立支援体制にも万全を期し、必要に応じて研究支援員を配置する等さまざまな支援策を用意しています。